

八 土佐中學校要覽

昭和五年拾壹月

開校記念の碑

筆山の麓鏡川の畔校舎巍々として咿唔の聲雲に響く是れ土佐中學校に非ずや教育振へば國家榮え教育振はざれば國家衰ふ維新の際薩長土と並稱せられて土佐より人材多く輩出したりしは文に武に父兄の教育氣分盛にして子弟の向上心盛なりしに因らずんばあらず爾來教育振はず人材漸く凋落せむとす川崎幾三郎宇田友四郎二氏大に慨する所あり巨財を投じて土佐中學校を創立し大正九年四月より假校舎にて授業を始め大正十一年十一月十八日本校舎の落成式を擧ぐ茲に在校生の父兄相圖り碑を建て、二氏の功を傳へむとす善い哉擧や父兄既に恩を知る子弟亦恩を知らざらむや體を鍛へ心を鍊り徳器を高くし智能を大にして國家に盡すは二氏の恩に報ずる也二氏の恩に報ずるは君國の恩に報ずる也

大正十二年一月

大町桂月 撰

松村翠濤 書

校歌

一

向陽の空淺緑

廣きぞ自が心なる

大洋の岸物榮ゆ

伸ぶるは我の力なり

嗚呼幸多き天と地

自然の啓示かしこしや

二

誠忠剛武並びなく

靈夢に入るか護国の士

達識睿智類なく

自由を唱ふ不死の人

嗚呼先賢に績あり

三才秀で尊しや

三

孕灣頭軒高く

兼山碑下に庭清し

協力一致誓して

集ふ同袍意氣強し

嗚呼勉めよや竭せよや

冠する土佐の名に合へ

四

それ右文と尚武こそ

強者の競ふ榮冠ぞ

人道正義の理想こそ

王者の擔ふ使命なれ

嗚呼吾れ亨けん不朽の名

奮へや土州健男兒

(大正十一年五月 教諭 越田三郎作歌)

一、設立趣意書

本校ハ大戦後國運ノ進展ニ伴フ中等學校内容充實ノ趣旨ニ依リ設立セラレタルモノニシテ中學校令ノ示ス所ニ據リ
中堅國民ノ養成ヲ目的トスルハ論ヲ俟タザレドモ亦一面高等教育ヲ受クルニ十分ナル基礎教育ニ力ヲ致シ修業後ハ進
ンデ上級學校ニ向ヒ他日國家ノ翹望スル人士ノ輩出ヲ期スルモノナリ

川崎宇田 財團法人 寄附行 爲

沿革 大正九年二月廿四日許可

全十二年二月十日變更

- 第一條 本財團法人ハ国家有爲ノ人材を養成スルノ目的ヲ以テ中學校ヲ經營スルモノトス
- 第二條 本財團法人ハ川崎宇田財團法人ト稱ス
- 第三條 本財團法人ノ事務所ハ當分ノ内高知縣土佐郡潮江村九拾八番地ノ二土佐中學校内ニ置ク
- 第四條 本財團法人ノ設立者川崎幾三郎宇田友四郎ハ第一條ノ事業費トシテ資金八十萬円ヲ寄附ス
- 第五條 前條寄付金ノ内貳拾五萬圓以内ヲ創立費ニ六拾萬圓以上ヲ維持資金ニ充ツルモノトス 但創立費ニ餘剩ヲ生シタル時ハ國債證券其他確實ナル有價證券ノ購入又ハ郵便貯金銀行預金等ノ方法ニヨリテ之ヲ利殖ス 但有價證券及銀行ノ選定ニ關シテハ理事會ノ議決ヲ要ス
- 前項ノ證券ハ郵便局又ハ日本銀行ニ托シテ保管ス
- 第六條 本財團法人ノ經費ハ維持資金ノ利子及授業料及其他ノ收入ヲ以テ支辦シ如何ナル場合ニ於テモ維持資金ノ消費ヲ許サズ
- 第七條 前條ノ收入ニシテ剩餘ヲ生シタル場合ハ之ヲ資金ニ編入シ又ハ翌年度ニ繰越ス
- 第八條 本財團法人ノ豫算ハ遅クモ毎年度開始ノ一ケ月前ニ理事會ノ議決ヲ經決算ハ年度終了後一カ月以内ニ監事ノ認定を經ルモノトス
- 第九條 本財團法人ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十條 本財團法人ニ理事七名以内監事二名書記一名ヲ置ク
- 第十一條 設立者又ハ其家督相續人ハ歴代相承ケテ本財團法人ノ理事トナル
設立者又ハ其家督相續人以外ノ一名ハ學校長ニ委嘱シ其他ハ設立者又ハ其家督相續人ニ於テ之ヲ囑托ス
設立者又ハ其家督相續人ノ囑托ニヨル理事ノ任期ハ三ケ年トス

第十二條 理事中ニ理事長及専務理事各一名ヲ置ク 理事長ハ理事會ニ於テ互選シ専務理事ハ學校長タル理事ニ囑托ス

理事長ハ本財團法人ヲ代表シテ之ニ關スル一切ノコトヲ統理ス 理事長事故アルトキハ理事長ノ指定シタル理事之ニ代ハル

専務理事ハ理事長ノ命ヲ受ケテ専ハラ常務ニ従事ス

第十三條 理事長ハ必要ニ應シテ理事会ヲ招集ス

理事會ハ過半数ノ理事出席スルニアラサレバ成立セス

理事會の議事ハ出席理事過半数ノ同意ヲ得テ之ヲ決定ス

可否同數アル時ハ議長之ヲ決ス

理事會ノ議長ハ理事長コレニ任ス

第十四條 監事ハ理事會ニ於テ選舉ス 其任期ハ三カ年トス

監事ハ本財團法人ノ財産及事業ヲ監査ス

監事ハ理事會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第十五條 任期アル理事及監事ニ缺員ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ補充ス 但補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十六條 書記ノ囑托及解囑ハ専務理事之ヲ行フ

書記ハ専務理事ノ指揮ヲ受ケテ庶務ニ従事ス

第十七條 寄附行爲ハ理事總數三分の二以上ノ同意ヲ得主務官廳ノ認可ヲ經ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ス

附 則

第四條ノ寄附金ノ内貳拾萬圓ハ設立許可ノ申請ト同時ニ四拾萬圓ハ大正九年三月三十一日迄ニ授受ヲ了スルモノトス

創立當時役員

理事長	阿部 龜彦
理事	川崎 幾三郎
理事	宇田 友四郎
理事	川島 正件
理事	安藝 喜代香
理事	北川 信從
専務理事	三根 圓次郎
監事	中谷 速水
監事	池本 浩靜
幹事	大森 貞次郎

(その後の異動は省略)

一 沿革概要

故川崎幾三郎及宇田友四郎ノ兩氏ハ夙ニ縣下ノ爲ニ私財ヲ投ジテ公共的事業ヲ經營セントスル意アリ大正七、八年ノ交豫テ昵近ナル北川信從氏ニ其事業ノ選擇ヲ委嘱セリ爾來北川氏ハ審思熟慮永久ニ且普遍的ニ兩氏ノ素志ヲ貫徹スルハ教育事業ニ如クハナシト斷ジ之ヲ兩氏ニ通ゼシガ兩氏亦大ニ之ヲ贊シ其資金六十万圓ヲ提供シ十万圓ヲ設備費トシ五十万圓ヲ基本金トスル財團法人トシテ之ヲ管理シ豫科ヲ附設スル中學校ヲ設立スルコトヲ協定セリ

大正九年一月十四日新潟縣新潟縣立中學校長三根圓次郎校長トシテ就任スルコトヲ諾シ全年二月八日着任開校準備ニ

カメ全月廿四日付ヲ以テ土佐中學校及ビ川崎宇田財團法人設立認可セラレ全年四月十六日本科入學式ヲ舉行シ
テ生徒廿八名ニ入學ヲ許可シ高知市帶屋町川崎幾三郎氏控家ニ於テ授業ヲ開始ス

大正九年四月廿一日ウイリアム、アンドリュウ、マキルエン夫人ニ英語教授ヲ囑托ス

大正九年五月六日豫科入學式ヲ舉行シ第一學年十名第二學年十五名ニ入學ヲ許可シテ豫科ノ授業開始ス

大正九年六月十六日ヨリ同十年十月マデ醫學博士武田鹿雄氏毎週二時特志ヲ以テ英語教授ヲ擔當セラル

大正九年七月從來土佐郡江ノ口町ニ於テ學校敷地ヲ調査中ナリシモ都合ニヨリ全郡潮江村ニ變更調査ヲ開始シ全年十

月十日全地ニ確定シ全年十二月廿七日敷地購入ヲ了ス

大正十年二月十五日埋立工事ヲ開始セン爲地鎮祭ヲ行ヒ翌十六日より起工ス

大正十年四月七日入學式ヲ舉行シ本科第一學年十四名豫科第二學年六名豫科第一學年十三名ニ入學ヲ許可ス

大正十年八月新築工事ニ着手ス

大正十年十一月二日マキルエン夫人轉任ニツキメリー・ボルムズ、及ビジイー・ポウルズ兩嬢ニ英語教授ヲ囑托ス

大正十年十一月九日理事北川信從氏來校生徒ノ爲講話セラレ職員生徒一同ト記念撮影ヲナス

大正十年十一月十日理事川崎幾三郎氏腦溢血ニテ逝去セラレ全十三日葬儀アリ職員生徒一同參列ス

理事川崎幾三郎氏逝去セラレタルヲ以テ北川信從宇田友四郎氏等計リテ豫テ當時ノ土佐銀行關係者ニヨリテ釀

金シ建設セントセシ川崎幾三郎氏ノ銅像ハ土佐中學校構内ニ建設スルコトニ協定セリ

大正十一年一月十五日埋立工事終了ス

大正十一年三月六日理事川崎幾三郎氏遺族川崎松子ハ故人ノ遺志ヲ繼ギ學校基本金トシテ金拾万圓全設備費トシテ金

五万圓ヲ寄附セラレ以テ本校ノ基本金六十万圓トナレリ

大正十一年三月廿二日ヨリ新校舎ニ移轉準備ノ爲職員生徒一同校具ノ運搬ヲナス

大正十一年三月末日校舎新築第一期工事成シ全年四月一日ヨリ第二期工事ニ着手ス

大正十一年四月八日生徒入學式ヲ舉行シ本科第一學年十六名豫科第二學年十名豫科第一學年十名ニ入學ヲ許可シ土佐

郡潮江村新校舎ニ於テ授業ヲ開始ス

大正十一年五月ヨリ生徒ノ正服ヲ夏期ハ霜降冬期ハ紺色ノ小倉立襟脊廣服ト定ム

大正十一年十月末日校舎新築第二期工事成ス其工費二十万圓ニシテ豫定ノ建築費ニテ十万圓ノ不足ヲ生ジ川崎宇田

兩出資者ニ於テ支出セラレタリ

大正十一年十一月十九日川崎幾三郎氏銅像除幕式舉行

大正十二年二月開校記念碑建設

大正十三年四月二十七日理事長北川信從氏逝去全三十日全校靈柩ヲ送ル

大正十三年七月ボルムズ、ポウルズ兩嬢辞任

大正十四年九月一日ヂヨン ハーバート ブレデイ氏ニ英語教授ヲ囑托ス

昭和五年三月二十日ブレデイ氏辞任

昭和五年四月十日學校長住宅建築開始、八月二十九日移轉住居

本校ノ特ニ留意セル点

- 一、個人指導ニ重キヲ置キ教授能率ノ増進ヲ計ルコト
- 一、天賦ノ能力ヲ發揮シ自發的修養ニ努メシムルコト
- 一、堅忍剛毅ノ性格、健實ナル思想ヲ養成スルコト
- 一、責任ヲ重ンジ好シク勞ニ就ク習慣ヲ養フコト
- 一、運動ヲ獎勵シ養護上ノ注意ヲ怠ラズ以テ体位ノ向上ヲ計ルコト

本校ノ實際

學年編成

- 一、本科第一學年ニ入學セシムルモノ、外小學校第四學年修了者ヨリ選抜セルモノヨリ成ル修了年限ニケ年ノ豫科ヲ置

ク

一、各學年豫科ニアリテハ約十五名本科ニアリテハ第五學年ヲ除キ約十五名ナリ

一、第五學年ノ人員ハ第四學年ヨリ上級學校ニ進ムモノ、數ニヨリ一定セズ現在ハ九名ナリ

教 授

一、各自ノ能力學力ニ應ジ教科書以外ニ材料ヲ工夫選擇シ個人指導ニ努ム

一、各教室ニ辞書ヲ豊富ニ備ヘ、自學自習ノ習慣ヲ養成ス

一、第四學年ノ第三學期ニハ英、國、漢、數ニアリテハホゞ中學校卒業程度ノ學力ヲ有セシムルコトヲ期ス

一、豫科ニ一週三時間ノ英語ヲ課ス

体 育

一、体操ノ授業時數ヲ普通規程ヨリ一時間多ク課ス

一、毎月末、身体狀況及体力ヲ検査シ養護上ニ遺憾ナカラシムコトヲ期ス

一、運動ヲ盛ニ獎勵ス

一、運動ノ際ハ裸体ヲ獎勵シ、九月初メ黒ン坊會ニテソノ等級ヲ表彰ス

備考 如上ノ努力ノ結果放課後残りテ何等カノ運動ニ従事スルモノ毎日平均全校生徒ノ三分ノ一ヲ超エ、全國及ビ縣下中學校ニ比シソノ身体検査ノ成績、別表ニ示ス如ク、優秀ナルハ本校ノ最モ幸トスル所ナリ

訓 練

一、毎月一回第四學年生主トナリ向陽會ト稱スル自治修養會ヲ開キ各學年ヨリノ風規ソノ他ニ關スル希望ヲ發表論議シ
相警メテ校規ノ振作向上ヲ計ル

備考 當會合ニ於ケル問題事項ハ大畧左ノ如キモノナリ

- 一、敬禮ヲ確實ニスルコト、某ノ敬禮惡シ
- 一、圖書室ノ整頓惡シ
- 一、便所ノ下駄ノ整頓
- 一、何學年ノ掃除常ニ遅ル
- 一、他級ノ授業中ハ靜肅ニ歩ク
- 一、土俵場ヲツクラレタシ
- 一、武術道具ノ整頓他人ノ道具ヲ使フナ
- 一、講堂ニ入ルトキ靜肅ニスル
- 一、黑板ニ樂書スルモノアリ
- 一、ポケットニ手ヲ入レルナ

一、左側通行ヲ勵行セヨ

一、コートヲ自轉車デ通ルナ

一、試験ノ時ニ物ヲ借ルナ

一、柔道場ノ豊ヲ増サレタシ

一、清潔整頓、圖書、運動器具ノ整理、監督等凡一切ノ作業ハ總テ生徒ノ各係ニヨリ自治的ニ行ハシム

一、毎年一回一同創立者故川崎幾三郎氏ノ墓ヲ弔ヒ謝恩ト共ニ報恩ノ念ヲ堅メシム

一、無監視販賣ヲ實施シ公德心ノ涵養ニ資ス

一、閲覧室ニ縣先輩ノ傳記、内外英傑ノ史記ソノ他健全ナル書ヲ集メ隨時閲覧セシメテ向上心ヲ喚起シ健實ナル環境ヲ與フルコトニツトム

一、級長ヲ置カズ、週番ヲ以テ是ニ代フ、ソノ規程左ノ如シ

週 番 勤 務 規 程

第一條 生徒ノ自治心及責任觀念ヲ涵養シ併セテ指揮監督ノ練習ヲナサシムル爲メ週番勤務ノ制度ヲ設ク

第二條 週番ハ各學級毎ニ正副各一名トス

第三條 週番ノ割出ハ各學級毎ニ級會長之ヲナス級會長ハ土曜日午前中ニ次週ノ勤務者ヲ發表スルモノトス

第四條 週番ノ交代ハ通常土曜日放課後トス

交代ハ新舊兩者立會ノ上舊週番ハ其ノ保管スル帳簿書籍物品簿ヲ点檢シ之ヲ新週番ニ引キ繼キ且勤務上參考トナルベキ事項ヲ申送ルモノトス

第五條 級會長ハ週番ニ服務セザルモノトス

第六條 週番勤務者ハ當該學級生徒ノ風紀振作ニ努ムルモノトス

第七條 週番日常ノ勤務左ノ如シ

(イ) 毎日生徒ノ出缺ヲ調査シ之ヲ出席簿ニ記入ス

(ロ) 教室備付物品ノ整理

(ハ) 掃除當番ノ割出

(ニ) 教師ト生徒トノ間ノ傳達

(ホ) 毎朝登校セバ教室廊下ノ硝子戸ヲ開キ換氣ヲ行ヒ且教壇机上ノ塵埃ヲ拂フ

(ヘ) 週番勤務録ニ所要ノ記載ヲナシ通常土曜日午前中ニ學級主任ニ提出ス

(ト) 正週番ハ教師教室ニ臨場及退室ノ際「起立」「禮」体操教練ノ時「頭右(左)」ヲ號令ス
備考 級會長ハ互選ニ依リソノ任期ハ一學期間トス

成績考查

一、成績考查ハ隨時是ヲ行ヒ、特ニ學期末ヲ以テセズ、ソノ結果ハ學期ノ中間及學期末ノ二回ニ亙リテ發表ス

一、成績ノ評語ハ左ノ如クニシテ

甲 九〇点以上 乙 八〇点以上

丙 七〇点以上 丁 六〇点以上

戊 六〇点未満

一科目六〇点 平均七〇点以上ヲ合格トス

授 業 料

一、月額豫科一圓五十錢 本科三圓八十錢（縣立學校ト同額）

是ヲ開校當時ヨリ職員恩給基金ニ充ツル爲ニ積立テ現在高五万余圓ニ上レリ

此ノ外ニ試験用紙費、印刷費、小運動器具費トシテ毎學期一圓ヲ納付セシム

給 費 生

一、身体强健、操行優良、學業成績級ノ上位ヲ占メ、學資ナキモノニ對シ願ニ依リ豫科ニアリテハ授業料ヲ免除シ、本科ニアリテハ月額十七圓以下ノ學費ヲ給與ス

備 考

給費人員及給費額調

大正 九 年 度 八 名 金七百九拾七圓

大正 十 年 度 九 名 金五百八拾圓八拾錢

大正 十 一 年 度 五 名 金五百五拾壹圓八拾錢

大正 十 二 年 度 七 名 金四百五拾六圓五拾錢

大正十三年度	五名	金貳百拾圓參拾錢
大正十四年度	三名	金百貳拾參圓四拾錢
大正十五年度	四名	金百參拾六圓八拾錢
昭和二年度	二名	金七拾九圓貳拾錢
昭和三年度	二名	金八拾參圓六拾錢
昭和四年度	一名	金貳拾六圓六拾錢
計	四拾六名	金參千四拾六圓
		四年度九月分ヨリ支給

寄宿舎狀況

舎監一名ソノ家族ト共ニ構内ニ居住シ、舎生ノ誘掖指導ニ當リ、是ヲ助クルニ同ジク構内ニ家族ト共ニ居住スル書記一名ヲ以テシ、相共ニ生徒トノ接觸ヲ密ニシ相互ノ理解ヲハカリ温情ヲ以テ是ニ臨ミ、生徒ヲシテ責任ヲ主ンジ眞ノ自治ノ意義ヲ体得尊重セシメンコトニ務ム

一、編 成

一室四名ヲ收容スル舎室十二アリ、現在舎生四十二名、上級生徒一名ヲ各室ニ配シ其室長トシ取締及輔導ニ當ラシム

二、役員及ソノ任務

每學期互選ニ依リ舍務係、學藝係、運動係、作業係各二名ヲ置キ舍務ヲ分担セシム、別ニ室長ヨリ成ル評議員アリ

任 務

- 一、舍務係ハ起床就床運動默學炊事等一切ノ時刻ノ報告ヲナシ献立表ヲ作り舍監ニ是ヲ提出ス
- 一、學藝係ハ毎月一回修養會ヲ開キ毎週一回週報ヲ編輯シ舍監ノ檢閲ヲ經テ舍生ニ配布ス
- 一、運動係ハ朝食前夕食後ノ運動獎勵ニ任ズ
- 一、作業係ハ室ノ内外ノ清潔整頓ノ督勵庭園ノ整理ニ任ズ
- 一、評議員ハ舍ノ改善ヲ協議シソノ實行ノ責ニ任ズ

三、日課及ソノ時刻 (第二學期)

起 床	六 時	朝ノ挨拶	六時十分	食前運動
朝 食	七 時	登 校	始業前十分	
外 出	放課後ヨリ	夕食時迄		
夕 食	五 時	食後運動又ハ作業		

默 學 六時卅分ヨリ九時三十分迄 (中途ニテ二十分休憩)

夕ノ挨拶 九時三十分

消 燈 十時

四、學資金取扱

出納簿ヲ備ヘ舍監之ヲ保管シ生徒ハ各自所定ノ帳簿ニヨリ必要ニ應ジ理由ヲ申出デ受取ル、ソノ収支決算ハ毎月一回

父兄ニ報告ス

一ヶ月ノ學資金畧左ノ如シ (昭和五年九月分)

一、食 費 一〇、八〇

一、授 業 料 三、八〇

一、舍 費 一、〇〇

一、試験用紙及運動具費 一、〇〇 (一學期ニ一度納入ノ分)

一、雜 費 四、〇〇

計 二〇、六〇 (洋服及教科書代金ハコノ外ナリ)

五、娛樂機關

談話及娛樂ノ場所トシテ休養室ヲ設ケ新聞雜誌圖書及種々ノ娛樂器具ヲ備付ク

六、炊 事

自炊

入 學 試 驗 規 程

受 驗 手 續

- 一、入學志願者ハ毎年豫科ハ二月中本科ハ三月中ニソノ保護者ニ於テ入學願書及ビ本人ノ履歷書ヲ當該小學校長ニ提出シソノ推薦ヲ請ヒ小學校ヨリ取調書ヲ添ヘテ本校ヘ進達スルモノトス
(入學願書履歷書及ビ取調書ノ所定用紙ヲ本校ヨリ送付ス)

受 驗 資 格

- 一、小學校ニオケル成績全級生徒數ノ十分ノ一以内ニシテ當該學校長ノ推薦ヲ經ナホ本校ヲ修了シタル後更ニ上級學校ヘ進ム志望者ニ限ル
- 一、豫科第一學年入學者ハ尋常小學校第四學年ノ課程ヲ修了シタルモノ
- 一、本科第一學年入學者ハ尋常小學校ノ課程ヲ卒業シタルモノ

試験 期 日

本科第一學年ニアリテハ二月中旬、豫科第一學年ニアリテハ三月中旬

試験 ノ 内 容

左ノ五項ノ中ヨリ行フ

- 一、學課試験 主トシテ国語算術
- 二、實地授業ニヨル學習狀態及取得能力ノ調査
- 三、心理測定法ニヨル記憶判斷推理注意等ノ能力ノ調査
- 四、体格検査
- 五、口頭試問

現在・過去職員表、昭和五年度學校經費調、本科各學年生徒移動調、各學年生徒年齢調、各學年生徒出席歩合、在學生出身校調、中學校生徒躰格検査比較表、卒業及修了者在學中ノ移動調、上級入學校別及其人員調、出身者動靜調、教科書配當表（以上略）

校舍說明書

一、校舍敷地	二千八百二十七坪五合	一、宿舍建物延坪	二百九十九坪五合
一、運動場	二千四百五十坪	玄關及廊下共	百七十七坪
一、建物延坪	六百七十坪四合六勺	浴室	十六坪
內譚		物置	六坪
本校舍二階建	二百四十七坪七合壹勺	炊事場	十八坪
玄關車寄	七坪	食堂	二十八坪
附屬平屋天秤室及暗室	四坪五合	賄夫室	六坪
外二三階	六坪	書記住宅	十坪五合
書庫二階建	十五坪七合五勺	井戸屋形	六坪
物理教室準備室		便所	七坪
標本室工作室 平屋	九十二坪二合五勺	渡廊下	六坪
講堂平屋	六十坪	舍監住宅	十九坪
劍道及柔道室	五十七坪五合		
屋内体操場及銃器室	六十七坪五合	一、敷地費	參万七千貳百六拾四圓六拾七錢
豫備室	六坪	一、建築費	貳拾万圓
便所	十四坪		
渡り廊下	七坪五合		
廊下	八十四坪七合五勺		

昭和五年十一月五日印刷
昭和五年十一月八日發行

土佐中學校